

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	小詩會詠草 : 文苑
Author(s)	露草; 花柴
Citation	龍南會雜誌, 1 2 3 : 7 1 - 7 1
Issue date	1907-12-25
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/6081
Right	

小詩會詠草

露

草

大地鳴り海轟けと物足らぬ心は君が懷に寢る。
君思ひ冷ねたる灰に消ねのこる一つ火思ひ我心泣く。
悲しさに居なれず心ともすれば夢にはの見し君許歸る。
獨り寢は臥すかとすればまどろみて音さまざまの葉落聽く夜。
君が手に餘りに強う引かれては心憶しぬ『名』の前に來て。

花

柴

夕紅葉いま泉水も石燈も山寺もみな火焰の中に
山靈は一葉一葉にこだまして紅葉をつゞる小なき瀧かな
哀音の響よ落葉風に鳴れうつろの胸の共鳴りすまで
灰白の面影西へ去ると見てまをこを閉ぢぬ森のうすれ日
やつれたる面わの少女愁訴する姿を思ひ落葉を聞く夜
高原のうら枯れ小草風に鳴る夕べを一人行く思ひかな